



E 球技（ソフトボール）【その次の年次以降】

手順 3 内容のまとまりにおける指導事項をバランスよく配置（指導事項の重点化）し、単元の目標を設定する。

（1）内容のまとまりにおける指導事項をバランスよく配置

●…重点指導事項 ○…複数回での指導機会 *…評価対象とせず指導する機会		その次の年次 3領域選択Ⅲ 球技（ソフトボール選択）													それ以降の年次以降 全領域選択（マيسポーツ）Ⅲ 球技（ソフトボール選択）														
指導事項		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
知識	1 技術などの名称や行い方																												
	2 体力の高め方	●																											
	3 課題解決の方法																												
	4 競技会の仕方																												
ベースボール型 技能	1 身体全体を使ってバットを振りぬく																												
	2 タイミングに合わせてボールをとらえる			○	○	○	○	●																					
	3 ねらった方向へボールを打ち返す																												
	4 バットの構えからボールをねらった方向へ打つ																												
	5 タッチアップでタイミングよく進塁の動きをする																												
	6 仲間の走者の動きに合わせて、塁を進んだり戻ったりする																												
	7 打球のパウンドやコースに応じてボールを捕る			○	○	●																							
	8 味方の動きに合わせて、ボールを投げる																												
	9 次の送球をしやすいようにボールを受ける																												
	10 投球では、コースや高さをコントロールして投げる																												
	11 1打者の特徴や走者の位置に応じた守備位置を立つ																												
	12 状況に応じて、最短距離での中継ができる位置に立つ																												
	13 打球や送球に応じてバックアップの動きをする																												
	14 ポジションに応じて、ダブルプレイに備える動きをする																												
思考力、判断力、表現力等	1 動きを分析して、良い点や修正点を指摘する																												
	2 課題を発見する																												
	3 課題を解決するための練習の計画を立てる																												
	4 危険を回避するための活動の仕方提案する																												
	5 活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案する																												
	6 状況に応じて役割を提案する																												
学びに向かう力、人間性	7 合意を形成するための調整の仕方を見付ける																												
	8 仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付ける																												
	9 生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける																												
	10 主体的に取り組もうとする																												
	11 フェアなプレイを大切にしようとする																												
	12 合意形成に貢献しようとする																												

（2）単元の目標の設定をします。

「その次の年次」における球技の指導事項の重点化を踏まえ、単元の目標を設定する。

単元の目標

- （1）次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、（体力の高め方）、課題解決の方法、（競技会の仕方）などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。
- ウ ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と（状況に応じた守備）などによって攻防ができるようにする。
- （2）生涯にわたって運動を豊かに継続するための（チームや自己の課題を発見し）、（合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する）とともに、（自己やチームの考えたことを他者に伝えること）ができるようにする。
- （3）球技に（主体的に取り組む）とともに、フェアなプレイを大切にしようということ、合意形成に貢献しようということ、（一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ）、互いに助け合い高め合おうということなどや、（健康・安全を確保すること）ができるようにする。

* 本事例では、学習指導要領「2 内容」を踏まえ、その次の年次以降の目標を全て記載した上で、その次の年次で指導し評価する部分については、（ ）をつけて単元の目標を示している。

手順 6 単元の指導と評価の計画（13時間）を作成する。

指導と評価の計画【高等学校 体育】

領域 球技（ベースボール型：ソフトボール）

年次 [その次の年次]

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、（体力の高め方）、課題解決の方法、（競技会の仕方）などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ウ ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と（状況に応じた守備）などによって攻防ができるようにする。													
	思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための（チームや自己の課題を発見し）、（合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する）とともに、（自己やチームの考えたことを他者に伝えること）ができるようにする。													
	学びに向かう力、人間性等	球技に（主体的に取り組む）とともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、（一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする）、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、（健康・安全を確保すること）ができるようにする。													
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	授業づくりのポイント	
学習の流れ	健康観察 ・ 準備運動													<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールや基本動作の確認をする。 ・ リーダーを中心とした、チーム別、グループ別の学習とする。 ・ タイミングを合わせてボールをとらえることや打球や 走者に応じて守備が行えるようにする。 ・ 個人やチームの課題解決に向け粘り強く取り組む。 ・ アドバイスをし合うことができるようにし、学習の振り返りで質を高めていく。 	
	本時のねらいの確認														
	0	キャッチボールドリル（ボール操作の反復練習）													
	10	オリエンテーション	守備練習 ゴロ捕球 フライ捕球						課題発見と課題解決の練習 予想される課題練習 ・ ケースノックなど	ミーティング タイム	最終リーグ戦				
	20	学習の準備	打撃練習 素振り トス ロングティー	ノック練習 内野 外野 中継プレー		【違いを超えて楽しむために提案されたルールでのゲーム】 ①作戦タイム ②ゲーム ・ スリーアウト制の緩和 ・ ティー台を使用 ・ カウントの緩和 ・ 守備の人数の増減 ・ 投手の位置の変更 等 ③チームの振り返り				①作戦タイム ②正規ルールでのゲーム ③チームの振り返り ※審判		単元のまとめ			
30	基本技術の確認	※見本動画確認 ※タブレットを活用し動画撮影 ※仲間への助言		共生											
40	本時のまとめ ・ 振り返り														
50															
評価機会	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	評価方法
	知識	①							②						学習カード、定期考査 観察、記録 観察、学習カード 観察、学習カード
	技能					②		①				③			
	思・判・表					①		②		③					
	態度			③									②	①	
単元の評価規準	知識	①球技の型や種目によって必要な体力要素があり、ソフトボールの技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。													
	技能	①タイミングを合わせてボールをとらえることができる。 ②打球のパウンドやコースに応じて、タイミングを合わせてボールを捕ることができる。 ③打者の特徴や走者の位置に応じた守備位置に立つことができる。													
	思・判・表	①課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ②チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。													
	態度	①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしている。 ③危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。													

具体的な指導内容

1 関連して高まる体力とその体力向上の手立て

- ベースボール型では、巧緻性、敏捷性、瞬発力、筋力などがベースボール型に求められる動きに関連して高まる体力である。
- 体力向上の手だてとして、動くボールを捕る、打つことで巧緻性、守備で素早く打球に反応し、捕って投げることで敏捷性、身体全体を使ってバットを振る、ボールを投げることで瞬発力、筋力が高まることを理解し、授業展開を行っていく。

2 知識及び技能の確実な習得のために（技能向上のための手立て）

- 知識においては、学習カードやチーム別、グループ別での学習を有効に活用し、お互いに確認しながら、確実に習得していく。
- スキルアップトレーニング
 - 【守備】キャッチボールドリルを毎時間継続的に行い、捕る、投げるといった基本的な技能向上を行う。
 - 【攻撃】素振りやトス、ロングティーなどで、バットを振る形を覚えながらスイング力を高め、ノックを打つことで、バット操作を上手にできるようにする。

3 ICT活用 教師の準備・評価 生徒の授業での活用、記録等の効果的活用等

- 導入段階でソフトボール上級者の走攻守の見本動画を視聴させることで、動きのイメージを持って、授業に取り組む。
- 生徒同士が、お互いにICT機器で動画撮影を行い、自分の動きを確認したりすることで、自己の新たな課題の発見ができ、課題解決の練習につながる。
- 活動の様子を撮影した動画や生徒が撮影した動画を、教師の評価に活用することで個のつまずきの速やかな把握と、そのつまずきに応じた指導に役立てる等、教師の授業改善につながる。

4 障がいのある生徒への配慮

- ボールやグローブ、バットの操作等が難しい場合には、動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるよう、視聴覚教材や掲示物の工夫をしたり、柔らかいボールやバットを使用したりするなど、生徒の実態に応じて段階を踏んだ指導を行う。
- 身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合には、生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるように、守備だけを行ったり、バッティングだけを行ったりするなどルールを変更し、それらの変更について仲間と話し合う活動を行うなどの配慮をする。

5 体力や技能の程度、性別や障がいの有無を超えて運動やスポーツを楽しむために、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような学習活動・学習形態・練習の取り組み方、ルールやゲームの工夫、男女共習の工夫など

- 共生の視点を踏まえながら、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたりできるように指導する。
- 守備でアウトにしたり、攻撃でヒットを打ったりしたら必ず拍手をする、ミスをした選手に対しては必ず励ましの声をかけるなどのルールを決め、雰囲気づくりを大切にゲームを行う。

時間	学習内容・活動 及び 指導のポイント
1	<p>【学習内容】</p> <p>○ソフトボールによって必要な体力要素があり、ソフトボールの技能に関連させながら体力を高めることができること。(知)</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>(1) 全体の学習の流れと、本單元における目標、学習評価の方針や方法について理解する。</p> <p>(2) 授業のルールや学び方の確認をする。</p> <p>○学習カードの確認やグループ分け等を行う。</p> <p>(3) ソフトボールの特性について理解する。</p> <p>○動くボールを捕る、打つことで巧緻性、守備で素早く打球に反応し、捕って投げることで敏捷性、身体全体を使ってバットを振る、ボールを投げることで瞬発力、筋力が高まることを理解する。</p> <p>2 基本技能の確認(キャッチボール)</p> <p>(1) 2人組でキャッチボールを行う。</p> <p>○投げる方向や隣との間隔、危険な際の声かけ等、安全面の指導を行う。</p> <div data-bbox="373 972 1214 1106" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まずは、自由な投げ方、捕り方で、ペアとのキャッチボールを楽しもう！</p> </div> 
2 3	<p>【学習内容】</p> <p>・ ○打球のバウンドやコースに応じて、タイミングを合わせてボールを捕ること。(技)</p> <p>○タイミングを合わせてボールをとらえること。(技)</p> <p>○危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。(学)</p> <p>1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認</p> <p>○健康・安全の留意事項(全体に提示し確認する。)</p> <div data-bbox="296 1473 1054 1821" style="border: 2px solid green; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>①一緒に活動する仲間の体調や安全に気を配ろう。</p> <p>②使用する用具やグラウンドの状態を確認しよう。</p> <p>③自分の体調や体力に合わせてながら活動しよう。</p> <p>④ボールから目を離さないように練習しよう。</p> <p>⑤バットを使用する際は必ず周囲を確認しよう。</p> <p>⑥危ないときは、必ず大きな声で声かけをしよう。</p> </div> <p>2 キャッチボールドリル(ボール操作の反復練習)</p> <p>(1) 2人組で基本のキャッチボールの確認を行う。</p> <p>○経験者にスモールティーチャーとして手本を示してもらい、踏み出し足、投げる場所、捕る構え等の確認を行う。</p>

3 守備練習（ゴロ捕球・フライ捕球）

(1) 2人組でゴロを転がし、ハンドリングと足運びの動きを作っていく。

○見本動画を視聴し、動きのイメージを持って練習する。

○捕球姿勢から捕って投げる。

○ステップ&スロー。ギャロップステップ（右足⇒左足で着地）2回で捕って投げる。



捕球の際は足を動かし、腰を落としてへその正面で捕球しよう！

×ボールが来るまで待つ ×膝を伸ばしたままグローブだけ下げる



(2) 2人組でフライを投げ、捕球動作の練習を行う。

○見本動画を視聴し、動きのイメージを持って練習する。

○フライを捕る際は、必ず「オーライ」の声かけを行い、他の生徒と接触しないよう注意する。

捕球の際は落下地点まで素早く移動し、顔の前で捕球しよう！

×ボールに合わせながら移動 ×グローブをあげたまま移動

×手を伸ばしてボールを捕りにいく



4 打撃練習

(1) 素振り

○見本動画を視聴し、スイングのイメージを持って素振りを行う。

割の形を意識して身体全体を使って素振りを行う。



(2) トスバッティング（4人1組）

○正面から下手投げでゆっくり投げられたボールをワンバウンドで打ち返す。

○バントやプッシュバントなども取り入れる。バントやプッシュバントの延長がヒッティングという間隔をつかむ。（特に初心者）

○最初は空振りをしたり、いろいろな方向へ打ち返したりすることが多いので、投手、打者だけでなく、捕手、野手もつけて練習を行う。

○打つ場所の間隔を考え危険を回避する。もし、他のグループの方へ打った際は、大きな声で危険を知らせる。

(3) ロングティー（4人1組）

○4人1組でロングティーを行う。一人がバッティング、一人がトス、二人が守備を行い、捕球したらトスを行っている生徒へワンバウンドで投げ返す。



【学習内容】

○打球のバウンドやコースに応じて、タイミングを合わせてボールを捕ること。（技）

1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認

2 キャッチボールドリル（ボール操作の反復練習）

（1）キャッチボールの種類を増やして行う。

①歩きながら投げる⇒②ステップを踏んで投げる⇒③ワンバウンドで相手に投げる



ステップ



ワンバウンド

3 守備練習（ゴロ捕球、フライ捕球）

（1）グループでゴロ捕球、フライ捕球の練習を行う。

○手投げでゴロやフライを投げ、タイミングを合わせてボールを捕ることを意識して練習する。



4 ノック練習（内野）

（1）グループでノックを打つ人、ゴロ捕球する人をローテーションして練習する。

○ノックを上手く打つことはバッティングの上達につながるため、守備練習だけを行っているわけではないことを意識して練習する。

○グループで役割分担を行い、スムーズにローテーションを行う。

〔例〕①捕球する人（3人） ②ノッカー ③送球を受ける人 ④アドバイザー

ノックのポイント

○トスの上げ方は、打球を打つポイントからボールを10cmから15cm上げる。トスを高く上げすぎると打つ姿勢から視線がずれてしまうため、あまりボールを上げすぎないのが重要。

○右打者の場合は右手で上げるとスイングがしやすく強い打球となる。左手で上げるとバットのコントロールが簡単になり、打球の打ち合わせがしやすくなる。

○ゴロを打つ際は、トスを低めに上げる。ボールの真中からやや上面をバットで叩くことを意識する。

手投げのゴロ補給でタイミングを合わせてボールを捕りにいった感覚を大切にして、足を動かしてボールを捕球しよう！



捕球しやすいポイントは、

①ショートバウンド

③落ち際

④落ち際～バウンドするまでの3つです！！

5

【学習内容】

○課題解決の過程を踏まえてチームや自己の新たな課題を発見すること。（思）

1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認

2 キャッチボールドリル（ボール操作の反復練習）

(1) キャッチボールの種類を増やして行う。

① 8人組キャッチボール



動画で確認▶

投げてから走るという動きを入れることで、足を使って投げる感覚を身につけよう！



3 守備練習（ゴロ捕球、フライ捕球）

(1) グループでゴロ捕球、フライ捕球の練習を行う。

○前時までの練習を踏まえて、チームや自己の課題をお互いに助言する。

必要に応じて、お互いにICT機器を活用し動画撮影を行い、気づき等を仲間へ助言しよう！



4 ノック練習（外野）

(1) グループでノックを打つ人、捕球する人をローテーションして練習する。

○前時に練習したロングティーの意識で外野ノックを打つ。

○ノックを上手く打つことはバッティングの上達につながるので、守備練習だけを行っているわけではないことを意識して練習する。

○グループで役割分担を行い、スムーズにローテーションを行う。

〔例〕①捕球する人（2～3人） ②ノッカー

③送球を受ける中継（1～2人）とホーム（1人） ④アドバイザー

○フライを打つ際は、トスをベルト位置から少し高い位置にあげる、バットの軌道は水平か少し振り上げる、ボールの中央から少し下面をバットで打つことを意識する。



動画で確認▶

6

【学習内容】

○タイミングを合わせてボールをとらえること。（技）

○球技の学習に主体的に取り組もうとしていること。（学）

1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認

2 キャッチボールドリル（ボール操作の反復練習）

(1) キャッチボールの種類を増やして行う。

①ランニングキャッチボール

目と手の協応生（調整力）のドリルで、空間定位と周辺視野、空間の奥行きを把握する力を養う。このことが、呼び込んで打つ、引きつけて捕るなどにつながる。



動画で確認▶

3 課題の発見と課題解決の練習①

(1) 各チーム、グループ、個人の課題に応じた練習を行う。

予想される課題練習

○ロングティー、ハーフバッティング、ノック練習

○ゲームにつながるよう、課題意識を持って練習する。

試合前あいさつ

4 提案されたルールでのゲーム①

(1) 作戦タイム

○提案されたルールを確認し、チームとしての作戦を考える。

(2) ゲーム

例 投手は味方から出し、ロングティーの形でバッティングを行うゲーム

○初めてのゲームなので、これまで練習しているロングティーの形からバッティングを行う。

○目の前に投手がいないので、ゲームの導入段階として安全が確保できる。

打つ方向などは気にせずに、タイミングを合わせて強い打球を打つことを意識しよう！バットをボールにぶつける！



(3) チームの振り返り

○ゲームで出た課題を、次時につなげていけるよう振り返りを行う。

7

【学習内容】

○チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てること。（思）

1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認

2 キャッチボールドリル（ボール操作の反復練習）

(1) キャッチボールの種類を増やして行う。

①手投げのゴロ捕球 ②手投げのフライ捕球



ゴロ捕球



フライ捕球

3 課題発見と課題解決の練習②

(1) 各チーム、個人の課題に応じた練習を行う。

予想される課題練習

○ケースノック、基礎の確認

前時に初めて行ったゲームでの振り返りを生かして、チームや自己の課題を解決するための練習をしよう。



4 提案されたルールでのゲーム②

(1) 作戦タイム

(2) ゲーム

〔例〕ティー台を使用して、投手も守備に入る形でのバックホームゲーム

○投手は、近い距離から来る打球を処理する必要があるため、まずは守備だけに集中して行うことで安全を確保する。打者との距離もとることができる。

○内野と外野の中継練習になる。

○打者は、どんな打球でも全力疾走を行い、ベースランニングの練習になる。

バックホームゲームのルール

○打った打球は全てホームに投げる。

○外野に飛んだ打球は、必ず内野を中継してからホームまで投げる。

○捕手が、ボールを受け取ってホームベースを踏み、アウトと言った時点までに進んでいる場所で得点を決める。

(1 塁まで1点 2 塁まで2点 3 塁まで3点 ホームまで4点)

参考URL

<https://npb.jp/promotion/pe-lesson/movie.html>

「みんなが輝くやさしいベースボール型授業」

NPB野球振興

(3) チームの振り返り

○ゲームでの課題と練習がつながっているか振り返りを行う。



8

【学習内容】

○競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり、書き出したりすること。(知)

1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認

2 キャッチボールドリル(ボール操作の反復練習)

(1) これまで取り組んできたキャッチボールの中から、それぞれの課題に応じたキャッチボールを選んで行う。

3 ミーティングタイム①

ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整には、どのような工夫が考えられるか話し合い発表する。

話し合いから次のような意見が出ると予想される。

(ベースボール型にまだあまり慣れていない生徒に対して)

- 三振ではなく、四振までOKとする。
- 打球が内野ゴロの場合はセカンドベースを経由して一塁へ送球する。
- 得意な生徒はゴロを打てばアウトとする。
- 守備の場合、内野ゴロは捕球した時点でアウトとする。
- 守備の場合、外野フライはワンバウンド捕球までアウトとする。
- ボールは柔らかい素材のものを使用する。
- 打った際、本塁から10メートルの半円内は捕球不可とする。 など



4 提案されたルールでのゲーム③

- (1) 作戦タイム
- (2) ゲーム

【例】女子の打球が内野ゴロの場合はセカンドベースを経由して一塁へ送球する。

- 投手は、スローピッチで打者が打ちやすいボールを投げる。
- バットに当てるのがやっとの生徒でも全力疾走でセーフになる確率が高くなる。
- 守る側は素早いボール送りが必要となり、とても盛り上がる。
- ゲームだけではなく、ボールパーソンや得点係、審判などそれぞれの役割に応じた行動をする。

安全を確保しながら、男女がともに楽しんでゲームができるよう、様々なアイデアを出していこう！



(3) チームの振り返り

- 男女ともに楽しめることができたかどうか意見を出し合う。

9

【学習内容】

○体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けること。(思)

- 1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認
- 2 キャッチボールドリル(ボール操作の反復練習)

3 ミーティングタイム②

体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむために、どのようなルールの工夫が考えられるか話し合い発表する。

話し合いから次のような意見が出ると予想される。

- 技能の差に応じて、打ち方を選択できるようにする。
(ピッチャー、ロングティー、ティー台など)
- 守備人数を9人以上にして、アウトをとりやすくする。
- バッティングが苦手な生徒には、カウントを緩和する。
- バントや盗塁は禁止だが、プッシュバントは認める。
- 全ての塁でフォースアウトを認める。
- 守備が苦手な生徒には、アウトゾーンをつくる。など

話し合いの様子



【アウトゾーンルール】

半径2mの円を作り、円の中で
キャッチすればアウトとする。



4 提案されたルールでのゲーム④

- (1) 作戦タイム
- (2) ゲーム



試合の様子

【例】打ち方を選択できるようにし、無死1, 2塁から行う。

- ルールの意義を理解してゲームを行う。
- 前から投げてくる球を打つのが苦手な生徒でも、打てるようになる。
- 2ストライクに追い込まれた後などにも、三振を防ぐため、ティー台を使用できるようにする。
- 攻撃は、打者を入れて3人が走ることになるので、より多くの生徒が参加することができ、運動量の確保にもつながる。

他者の立場や状況への配慮がなく、自己のプレイに固執したり、
修正したルールを無視したりしないようにしましょう！



- (3) チームの振り返り

○さらにゲームを楽しくしていくためにルールの改善ができないか意見を出し合う。

10

【学習内容】

○打者の特徴や走者の位置に応じた守備位置に立つこと。(技)

- 1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認
- 2 キャッチボールドリル(ボール操作の反復練習)

3 課題発見と課題解決の練習③

(1) チームの枠を超え、全体で課題発見と課題練習を行う。

予想される課題練習

○走者をつけたノックを行い、守備、走塁技術を高める。

4 提案されたルールでのゲーム⑤

(1) 作戦タイム

(2) ゲーム



前時の振り返りにより改善、提案されたルールでゲームを行う。

○共生の視点を持ってゲームを行う中で、仲間とともにゲームを楽しみ、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めること。

○これまでの学習を踏まえて、打者の特徴や走者の位置に応じた守備ができるよう、チーム内での声かけを大切にする。



守備は6人で、ポジショニングを工夫している様子

フォースプレー、タッチプレー、タッチアップなど、ゲーム形式で「プレイの中で学ぶ」ことを意識しよう！



(3) チームの振り返り

○次時から行う正規ルールでのゲームにつながるよう、互いにアドバイスをする。

11

【学習内容】

○一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にする。 (学)

1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認

2 キャッチボールドリル (ボール操作の反復練習)

3 最終リーグ戦

(1) 作戦タイム

(2) 正規ルールでのゲーム

雰囲気づくり



基本、正規ルールでゲームを行うが、ルールの調整を可とする。

○これまでの学習を踏まえて、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にする。

○守備でアウトにしたり、攻撃でヒットを打ったりしたら必ず拍手をする、ミスをした選手に対しては必ず励ましの声をかけるなどのルールを決め、雰囲気づくりを大切にしながらゲームを行う。



違いに応じたプレイ



熟達志向的な雰囲気をもみんなで心がけ、エラーや判断ミスは、場面が分かるチャンスだと捉え、お互いに教え合い学び合おう！

(3) チームの振り返り

○ゲームの雰囲気づくりを全員でできていたか振り返りを行う。

12
・
13

【学習内容】

○球技の学習に主体的に取り組もうとしていること。(学)

- 1 健康観察・準備運動・本時のねらいの確認
- 2 キャッチボールドリル（ボール操作の反復練習）
- 3 最終リーグ戦
 - (1) 作戦タイム
 - (2) 正規ルールでのゲーム



基本的に、正規ルールでゲームを行うが、生徒の実態に応じて学習してきた工夫したルールで行う。

○主体的に学習に取り組むとともに、フェアプレイを大切にし、互いに助け合い高め合いながらゲームを楽しむこと。

○攻撃側から審判を出し、全員がローテーションして行えるようにする。



主体性



攻守交替

攻守交替を迅速に行い、長いイニングを目指そう！場面の理解からプレイを選択し、周りの状況を判断しながらプレイしよう！



(3) チームの振り返り

○全員が主体的に授業を楽しめていたか振り返りを行う。